

教職員・幼児児童生徒・保護者を応援します！

サポート

No. 212

令和8年1月21日発行

県教育庁特別支援教育課指導チーム

令和7年度秋田県特別支援学校就労促進フェア

秋田県特別支援学校就労促進フェアは、特別支援学校生の就労促進に向けて、企業関係者等の理解促進を図ることを目的としています。今年度は、県北地区は能代山本広域交流センター、県央地区は栗田支援学校、県南地区は角館交流センターの3会場で開催し、企業関係者等、約120名に会場いただくことができました。

主な内容

◇「夢の実現に向けて～就労を目指す生徒の実践発表～」

◇技能競技会「錬成会」

ビルクリーニング、喫茶サービス、ワード・プロセッサ、縫製（県北地区のみ）

◇作業学習製品展示・販売

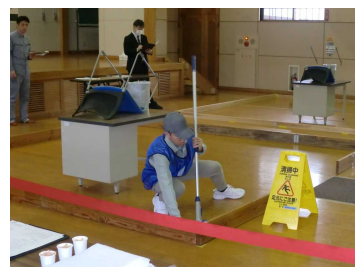
木工、陶芸、縫製品等の展示・販売

「夢の実現に向けて～就労を目指す生徒の実践発表～」では、各校の代表生徒が、将来の夢の実現に向けて学校生活で頑張っていること、そして、「働きたい」という思いを発表しました。職業科の学習や現場実習等を通して自分自身の課題と向き合い、進路実現に向けて取り組んできたひたむきな姿勢が伝わる、熱意あふれる発表となりました。

錬成会の各競技では、選手が緊張した表情を見せながらも、日頃の学習で培った力を存分に発揮していました。競技終了後には、審査委員長から、実技を交えた講評をいただきました。

また、県北地区では株式会社大同観光、県央地区では株式会社友愛ビルサービスのご協力を得て、来場いただいた企業関係者に向けて「障害者雇用と職場定着に向けた企業の取組」をお話いただく時間を設けました。在学中の現場実習の大切さや雇用後の支援のポイント等、貴重な情報を提供していただきました。

来場者からは、「真摯に作業する姿に感銘を受けた」「ぜひ一緒に働きたい」「目標実現のために協力したい」という感想が寄せられました。今後も関係機関との連携により、生徒の就労意欲の向上と職業教育の充実を図り、就労促進に向けた主体的な進路選択につながる取組を推進していきます。



【ビルクリーニング競技】



【喫茶サービス競技】



【実践発表】



【ワード・プロセッサ競技】

(特別支援教育課 指導主事 神田 雄樹)

令和7年度部局横断プロジェクト「特別支援学校生の就職の促進」

土木建設業で県内初「もにす認定*」企業～(株)大森土木の視察

*「もにす認定」：障害者雇用に係る優良中小企業に関する認定

特別支援教育課では、「特別支援学校生の就職の促進」をテーマとする県庁内の部局横断プロジェクトに、連携課となる雇用労働促進課、建設政策課、障害福祉課と共に取り組んでいます。今回は、プロジェクトの一環として12月2日（火）に行った、(株)大森土木（大館市花岡）の視察について紹介します。

当日は、現場で働く障害者の方の就業状況や職場定着に向けた取組についてお話を伺い、実際の作業現場を見学させていただきました。担当の方からは、「作業内容は現場ごとに異なるが、会社の努力や工夫次第で障害があっても十分に対応できる」「生徒の体験学習の前に、まずは先生方に建設業界を知ってほしい」等のお話がありました。

今回の視察を通して、特別支援学校生の建設業への就労の可能性を感じました。「まずは知ること」が関係づくりのための第一歩となります。建設業に限らず、今後も、見学や体験などの機会を通じて、事業所と学校が相互理解を深めていくことが大切であると再認識しました。（特別支援教育課 指導主事 神田 雄樹）



【木の伐採現場の見学】

特別支援学校の特色ある取組紹介

「地域に貢献する教育活動（絆プロジェクト）」

中学部・高等部合同除草・除雪ボランティア～比内支援学校たかのす校～

比内支援学校たかのす校では、各学部がそれぞれに地域との関係を生かし、各教科等との効果的な関連付けを図りながら、教育活動の充実を図ってきました。今回は、中学部と高等部が合同で取り組む除草・除雪ボランティアを紹介します。

高等部が「地域のために」と考え、平成13年度にたかのす銀座通り商店街へのプランター設置を始めました。平成24年度からは、年間を通して地域のために活動したいと考え、北秋田市社会福祉協議会の協力を得て、地域のご高齢者宅を訪問しての除草・除雪ボランティアも始めました。中学部は平成26年度の除雪から参加し、それ以降、中学部・高等部合同での除草、除雪を年間、各2回行っています。

訪問先は、北秋田市社会福祉協議会と地域の民生委員の方からご高齢者宅へ連絡していただき決定します。年々、訪問先が限定されてきている現状ですが、その結果、長年に渡って、生徒の除草・除雪の技術が高まっていくのを見てくださることとなり、その評価が生徒たちの活動への動機付けになっています。また、技術の高まりに合わせて、狭い場所の除草・除雪を依頼されるなど、難易度が高まることで生徒の意欲向上につながっています。高等部生徒からは、「地域の方から『ありがとう』『助かった』と言葉を掛けていただき、人のために頑張ることはとても気持ちの良いことだと感じた」、中学部の生徒からは、「友達と協力し、きれいに除草・除雪したお宅を見ると、嬉しい気持ちになった」「作業への集中力など、先輩のすごさが分かった」という感想が聞かれました。

本校では、「地域とのつながり」のほか、高齢化といった「地域の課題」をテーマにした地域貢献活動に長年にわたって取り組んでいます。生徒一人一人の個性や強みを生かし、それを伸ばすことができる活動の在り方を今後も探っていきたいと考えています。

（比内支援学校たかのす校 教諭 藤本 博明）



【中高ペアでの除草】



【昨年度の除雪の様子】

インクルーシブの風

このコーナーでは、インクルーシブ教育システムの推進の観点から、各校種等における特別支援教育に関する取組や交流及び共同学習の様子などを紹介していきます。

「特別支援学級実践研修」は、提示授業に基づく協議等を実施することにより、特別支援学級担任の実践的指導力の向上を図る研修です。今回は、鹿角市立花輪小学校の特別支援学級実践研修を紹介します。

「分かる・できる・楽しい」を実感できる授業の工夫

～鹿角市立花輪小学校～

知的障害特別支援学級（4年生4名、5年生4名）の生活単元学習「プロジェクト8～クリスマス会を開こう！～」の実践を紹介します。本単元は、クリスマス会の計画や準備、友達を招待する活動の中で、見通しをもって主体的に取り組む力や、友達とのやり取りを通して自分の思いを伝え合う力を高めることをねらいとしています。

様々な実態の児童8名が協働し、課題解決に向けて自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞いたりしながら、主体的に活動に取り組む授業でした。この児童の姿を支えた、三つの指導上の工夫を紹介します。

一つ目は、授業の土台としてユニバーサルデザインの視点での指導の工夫があったことです。例えば、単元計画表や1時間の流れを視覚的に示すことで、児童は「今日の活動はこれで終わりだけど次の時間も製作できる」といった活動全体の見通しをもち、安心して製作を進めることができていました。

二つ目は、製作のための材料を豊富に用意していたことです。加えて相手意識をもてる活動にしたことで、「～さんが好きな色で、かっこよく作る」など、児童が自ら考え、工夫して製作する姿につながっていました。

三つ目は、年間を見通した単元計画です。「製作→招待」という活動を年間で繰り返す中で、一人一人に役割をもたせたり、ペアやグループで協力する場面を意図的に設定したりし、活動を発展させる計画でした。活動をパターン化することで自信をもって活動し、「飾りのバランスの取り方を教えて」「終わったから手伝うよ」など、児童同士で支え合いながら製作に取り組む姿が見られました。

教師の細やかな支援に支えられ、仲間と共に挑戦することで「分かる・できる・楽しい」を実感できた、児童主体の授業実践でした。

（北教育事務所鹿角出張所 指導主事 市川千恵子）



【活動の流れが分かる板書】



【友達との協力場面】

令和7年度文部科学大臣教育者表彰

文部科学省では、学校教育の振興に特に顕著な功績のあった方を表彰しています。この度、秋田きらり支援学校の 松井 智子 校長が「令和7年度文部科学大臣教育者表彰」を受賞されました。

松井 智子 校長先生、この度は本当におめでとうございます。

